

C-78 ブラジャーに関する研究
—ブラジャーと皮膚とのずれについて—

日本女大家政 樋口ゆき子

○沖浜 光子

1. 最近のブラジャーは、人体にかなり良くフィットするようになったと思われるが、人体が動いたときに良くアダプトしているかどうか疑問に思われるので、ブラジャーと皮膚とのずれを測定し、検討した。

2. 被検者としては、標準的な体格をしていると思われる成人女子3名、また、試料として、昭和43年6月に実施したアンケートの結果により着用率が高いと思われたブラジャー4点を選んだ。

被検者にブラジャーを着用させ、それを被検者が快いと思う位置に落着かせる。このブラジャーの位置を基準とし、動作をしている時と、動作をし終った後静立した時のブラジャーの位置を測定した。なお、測定箇所は7箇所、測定動作は8動作（上肢側方挙上、上肢前方挙上、体幹前屈、体幹後屈、体幹側屈、体幹捻転、肩を上げる、右下横臥）である。

3. 動作時、ブラジャーと皮膚との間にずれが生じ、動作をし終って後静立した時も、ブラジャーに十分な復元力がないためにブラジャーは基準点にもどらず、いわばブラジャーは上った状態になるということが認められた。そして、この上り分を少なくするための方法について研究した。